

このようにして貼付けた標本は、従来の方法によるものと外見上全く差は無い。しかもテープの接着力はアラビア糊より強く、小面積の貼付で目的を達することができる。また瞬間的に固着するので貼付作業の時間を短縮できる。紙テープはポリエチレンで裏打ちされて強化されるので、従来のものより薄いもので足りる。また鋏を当てたままテープを引張ると簡単に切ることができるので、従来の様にあらかじめ鋏で切る必要がなく、手数が大変省ける。

ラベルや小袋などを貼付するには、その下にポリエチレンシートの小片をはさんで数ヶ所で熔着すればよい。またこわれ易い花などは上にポリシートをかけ、周囲を紙テープでふち取りしながら熔着する。

Summary An idea to mount botanical specimens with polyethylene laminated paper-tape and electric soldering iron is recommended as an easier and more convenient method than the one with paper-tape and glue heretofore in use.
(東京大学総合研究資料館植物部門)

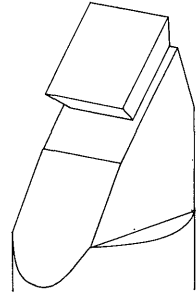


Fig. 1. Tip of the soldering iron.

○ハルサザンカの2新品種 (山崎富佐子) Fusako YAMAZAKI: Two new cultivars belonging to the *Camellia vernalis* group.

最近、浜松市の植物愛好家、前田勝宏氏が2種類のハルサザンカを同定のため、お茶の水女子大学の津山尚教授のもとに送って来た。前田氏はツバキでもサザンカでもなく不審に思われたようであるが、両者ともツバキとサザンカの間際の性質をもつハルサザンカの新品種と思われる。現在ハルサザンカと推定されている園芸品種は約20種あるが、今回のように人家に栽植されているものが発見されることは大変珍しい。1月31日津山先生と現地を見学したので報告する。

1. 竜光(リュウコウ) 浜松市近郊の旧家の邸内にある。かつては隣家の邸内にあつたらしいが、明治中期に敷地と共に買取られたという。由来については殆ど何もわかっていない。ただ同家の老夫人(現在生存しておられれば85~6才)が「ワビシツバキ」と呼んでおられた由である。その名の如くひっそりと100年以上も咲いていたのであろう。

樹高一約4.5m, 幹まわり71cm(地上1m)地上約3mの所で切断され、数本の枝を出している。花は赤色(標準色鑑一興林会による)、一重咲筒心、やや盃形に開く。弁数6~8弁、花卉の基部と花糸の基部は3~5mm癒着し、花卉とおしべ群は散らないで落下する。萼苞は満開時に殆ど落下する。花径は6~6.5cm位、花卉は細長い倒

卵形で先端は凹入，弁質は厚く平滑。花柱は淡黄色で 3 裂し，白色の長毛が散生する。子房には光沢のある白色の長毛が密生し，花柱の基部をもおおっている。おしべ群は黄色味をおびた紅色で，外側の下部は 7~8 mm 癒着しているが，内側の花糸は分離しており，わづか基部のみ接続している。葯は黄色，葯隔は開いており，花粉は不完全で種子はできにくいようである。葉はやや光沢があり，薄質で固い。楕円形又は倒卵形，長さ 3~4 cm，巾 1.8~2.4 cm，先端は突形，主脈に沿って少し中折れし，全体ゆるく反曲する。鋸歯は細かく鋭い。表裏の主脈は隆起し，側網脈は凹み，表面主脈上に褐色の剛毛が密生，葉柄の上面に続く。裏面の主脈上にはわづかに白色の斜上毛がある。若枝も有毛。この品種は「鎌倉紋」にやや似ているが，1) 花弁数がやや多い。2) 弁の巾が細い。3) 葉が小型で葉脈が明瞭。4) 表面の主脈上基部に剛毛がある。5) 花糸の赤色が濃い等の点で明瞭に区別される。

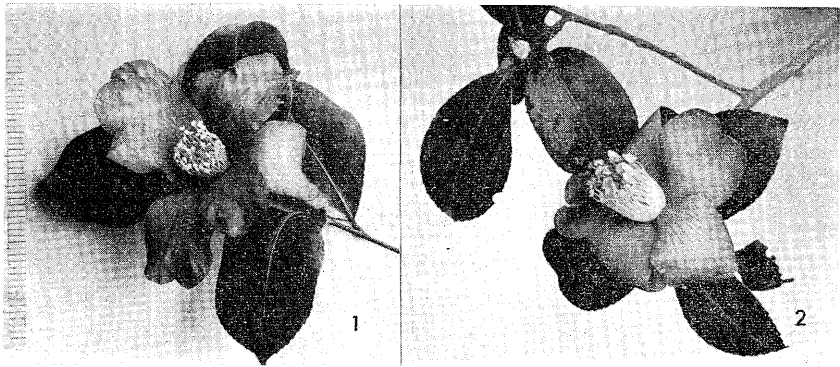


Fig. 1. *Camellia vernalis* cultivars. 1. Ryūkō. 2. Saohime. $\times 1/2$.

2. 佐保姫(サオヒメ) 浜松市近郊の農家の邸内にある。

樹高一約 3 m。根元は 5 本に分れ，その内 2 本は太い。最も太いものは幹まわり 31 cm (地上 30 cm)。花は淡赤色(標準色鑑一興林会による)で，時に不定形の白色の星斑や，横杓紋をあらわす。一重咲筒心で，花は前者より花弁が裏面に反りかえる。弁数 5~7 弁，花弁と花糸の基部は 6~7 mm 癒着し，散らずに落下する。花径は 6~7 cm，花弁は細長い倒卵形で先端は深く凹入し，弁質は厚く平滑である。花柱は淡黄緑色で 1.8 cm 位，浅く 3 裂し毛がない。子房は平滑で，側壁に沿って白色の長毛が散生する。おしべは 70~80 本位，花糸は淡黄色で長さ 1.7~2.8 cm，外側の花糸の基部は 1.5 cm 位癒合し筒状をしている。葉はやや光沢があり，楕円形で先端は突形，長さ 4~4.3 cm 巾 2~2.4 cm，薄質で固い。わづかに中折れし，ゆるやかに反曲する。

鋸歯は鋭く細かい。表裏の主脈は隆起し、表面の側網脈は凹、裏面の脈はやや不鮮明。表面の主脈上には褐色の剛毛があり、葉柄上に及んでいる。若い葉の裏面には茶色の伏毛があるが、後に脱落し、主脈附近に有毛なものと無毛のものがある。(観察時期2月4日) 若枝は有毛である。この品種は「近江衣」にやや似ているが 1) 花卉数が少い。2) 弁の巾が細い。3) 子房の毛が著しく少い。4) 葉が小型で先端が急に突形になる。5) 表面主脈上、葉柄に剛毛がある等の点で区別できる。

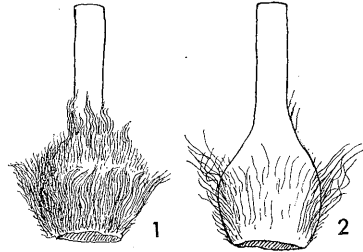


Fig. 2. Ovary of *Camellia vernalis* cultivars.
1. Ryūkō. 2. Saohime $\times 5$.

Two new cultivars belonging to the so-called *Camellia vernalis* group are found at Hamamatsu City, Shizuoka Pref. by Mr. Katsuhiko Maeda. The first one is named here as 'Ryūkō', as this is cultivated in a private garden at Ryūkō-chō of the city. 'Ryūkō' is an old stand, the trunk measuring more than 4.5 m in height and about 70 cm in circumference at the height of 1 m. The flower is semidouble red (Spectrum Red by Ridgway: Color standards and nomenclature) with the petals 6 to 8 in number. The ovary including the basal part of the style is densely covered with silky hairs as usually seen in *Camellia sasanqua*. In the lower part of the ovary, the hairs are manifestly spreading, but towards the upper portion they are rather strongly appressed.

The second one is named 'Saohime', meaning the goddess of spring in Japanese. This is also an old stand cultivated in a private garden near to the former locality. The trunk is divided into 5 unequal branch at the very base, the largest measuring 31 cm in circumference at the height of 30 cm, the crown attaining to about 3 m. The flower is single pale rose (Begonia Rose by Ridgway) often blotched white that is transverse and wavy. The shape of the flower resembles that of *Camellia japonica*, but is definitely smaller in size. The ovary is sparsely covered with rather long and in part irregularly winding silky hairs, which are slightly appressed to the side-wall leaving the apical portion free from the surface.